

確認テストchallenge①-I (計画)

問題 1

建築士の職責、業務等に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 建築士は、常に品位を保持し、業務に関する法令及び実務に精通して、建築物の質の向上に寄与するように、公正かつ誠実にその業務を行う必要がある。
2. 建築士は、他人の求めに応じ報酬を得て、建築物に関する調査及び鑑定のみを業として行う場合であっても、建築士事務所を開設して業務を行う必要がある。
3. 建築における省エネルギーへの取り組みは、社会的課題であり、建築物の新築時においては、用途や規模にかかわらず「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」に基づく省エネ措置に関する届出を行う必要がある。
4. 建築物の長寿命化を図るために、建築物の完成後も継続的に適正な維持管理が行われるように計画の初期段階から配慮する必要がある。

問題 2

京都にある鹿苑寺金閣と慈照寺銀閣に関連した記述として、**最も不適当な**ものは、次のうちどれか。

1. 金閣は、足利義満が造営した北山殿の一部であり、最上層を禅宗様仏堂の形式とし、第2層に和様仏堂風、初層に住宅風の建築様式を用いている。
2. 銀閣と同じ敷地に建つ東求堂とうぐどうの同仁齋どうじんさいは、現存する最も古い違い棚と付書院をもつ「四畳半」である。
3. 金閣や銀閣は、敷地の南側の庭や池を、「コの字型」に囲んだ寝殿造の建築物のうち、釣殿つりが残ったものである。

4. 金閣や銀閣が建てられた時代には、武家住宅に、床の間・違い棚・付書院などの座敷飾りが用いられるようになり、書院造が発展し、今日の和風住宅の原型が形成された。

問題 3

建造物と環境に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 1997年に竣工した世田谷区深沢住宅は、環境共生をテーマとした公営住宅であり、自然環境との共生のほかに、人と人の共生を促す計画(高齢者用住戸をつなぐ空中路地など)がなされている。
2. 1995年に世界遺産に登録された白川郷・五箇山の合掌造り集落においては、周辺の耕地や山林を含めた範囲を指定することにより、全体としての環境保存がはかられている。
3. 近年の日本では、近代の建造物を近代化遺産として保存する動きがあるが、イギリスのアイアンブリッジ峡谷博物館(1973年一般公開)は、複数の産業・土木遺構を現地で再生して展示し、環境教育の場としている。
4. C I A Mは、1992年から始まった国際的な会議で、地球環境の保全のために、エネルギー消費の少ない住宅や都市環境の設計をめざす建築家によって提唱されたものである。

問題 4

公共施設の計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 体育館における配置計画は、一般に、自然採光と、夏期の通風・換気に配慮して、長軸を東西方向に配置する。
2. 幼稚園における3歳児学級の1人当たりの保育室の床面積は、一般に、4歳児又は5歳児の場合に比べて大きくする。
3. 市庁舎においては、市民が日常利用するメインエントランス、職員・サービスのエントランスのほかに、議会用のエントランスを考慮する必要がある。
4. 地域図書館における延べ面積当たりの蔵書数は、一般に、100冊/m²程度を目安として計画する。

問題 5

事務所ビルの計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 地上28階建ての事務所ビルのエレベーターの計画において、各ゾーンのサービスフロア数を10フロアとした。
2. 省エネルギーに配慮した照明計画において、一般の事務室の机上における照度の目標を750 lx とし、昼光センサーと連動して照度を制御する照明器具を選定した。
3. 基準階(床面積3,000㎡)における電気設備や盤スペースのEPSは、事務所ビルを利用する組織やテナントの変化に対応する必要があったので、二次側配線のために集中配置とした。
4. 地上18階建ての貸ビル(基準階の床面積1,200㎡)において、非常用エレベーターの乗降ロビーを特別避難階段の付室と兼用させて、その床面積を15㎡とした。

問題 6

公共施設における床の材料又は仕上げに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 床の滑りの指標のうち、JISにおける高分子系張り床材試験方法に定める滑り性試験により測定される滑り抵抗係数(C.S.R)は、埃^{ほこり}や水等の介在物によって変化する。
2. 階段の計画に当たり、階段の滑りには踏面だけでなく段鼻の滑りも大きく影響することから、滑りにくい段鼻材を採用することが望ましい。
3. 床材は、同一の床において滑り抵抗係数を変化させると高齢者のつまずきの防止が期待できることから、滑り抵抗係数に大きな差がある材料を複合使用することが望ましい。
4. 建築物の出入口に設ける視覚障害者誘導用ブロック等は、金属製のものを使用する場合、雨滴によりスリップしやすいため、ノンスリップの加工があるものを採用する等の配慮をすることが望ましい。

問題 7

建築物等の各部寸法に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 小型自動車用の自走式駐車場において、車路の屈曲部の内法半径を、5 mとした。
2. 踏面35cm、蹴上げ14cmで計画していた階段を、踏面に余裕をもたせるために踏面を41cmに広げ、昇降のしやすさを考慮して、蹴上げを11cmとした。
3. 小学校の普通教室(40人)の広さを、9 m×9.5mとした。
4. 道路と敷地内通路との段差を、車いす使用者の通行に配慮して、3 cmとした。

問題 8

建築計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 直前の隣接する2項の和が次の項となるような数列(フィボナッチ数列)を順次作成していくと、その連続する2項の比率は黄金比に近づく。
2. 木割りは、我が国の伝統的な建築において、各部構成材の比例と大きさを決定するシステムである。
3. 木造軸組構法の住宅において、真壁式は、一般に、大壁式に比べて、防寒・防音性に優れている。
4. 和室において、床の間に向かって、左側に書院、右側に床脇を設けたものを、本勝手という。

問題 9

車いす使用者の利用に配慮した建築物の計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 百貨店の多目的トイレにおいて、オストメイト用の流し及び多目的シートを設置し、内法寸法を1,600mm×1,600mmとした。
2. 公共建築物のエントランスホール内に設けるスロープは、勾配を $\frac{1}{12}$ とし、手すりをスロープの床面からの高さが650mmと850mmの位置にそれぞれ設けた。
3. 住宅の台所において、調理台、流し台、レンジ及び冷蔵庫の配置を、車いす使用者が利用しやすいようにL字型とした。
4. 公共建築物のエレベーターにおいて、かご内の左右それぞれの側面に、操作盤をかごの床面から1,000mmの高さに設けた。

問題 10

都市計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. オースマンのパリ改造計画では、大通りに面した建築物は一定の統一感をもたせることが要求され、ビルの高さや間隔等もコントロールの対象となった。
2. 建築協定においては、建築物の用途・形態をコントロールすることができるほか、建築協定区域内の公共施設整備計画を定めることもできる。
3. スプロール現象とは、市街地が郊外に向って無秩序に虫くい状に拡大していく現象である。
4. ボンエルフは、1970年代初期にオランダで始められ、自動車を低速化させる道路の工夫を用いて、歩行者と自動車の共存をはかる道路計画である。

問題 1 1

まちづくりに関する用語とその説明として、**最も不適当な**ものは、次のうちどれか。

1. レジリエンスは、一般に、自然災害等により、社会基盤やそれが支える社会及び経済が一時的に大きなダメージを受けても、速やかに復活できること等を意味する。
2. ダウンゾーニングは、都市計画で定められた容積率の引下げや建築することができる用途を住宅等に限定する等、規制を現行に比べて厳しいものに変更することである。
3. トランジットモールは、歩行者用の空間であるモールの形態の一つであり、一般の自動車の進入を排除して、路面電車やバス等の公共交通機関に限って走行を認めたものである。
4. エリアマネジメントは、行政主導により地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための取組みのことである。

問題 1 2

高齢者及び障害者の利用に配慮した計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 公共施設の屋外に設けるスロープにおいて、車いす使用者同士がすれ違えるように、有効幅員を180cmとした。
2. 集合住宅の共用エレベーターにおいて、出入口の有効幅員を80cmとした。
3. 公共交通機関における視覚障害者を誘導する経路において、黄色の誘導ブロックでは、周辺の床との対比において十分な輝度比が確保できなかったため、黄色以外の誘導用ブロックで輝度比2.5以上のものを敷設した。
4. 車いす使用者が利用するキッチンの流し台上部に固定した食器戸棚の上端までの高さを、車いすの座面から120cmとした。

問題 1 3

次の集合住宅の名称とその計画上の特徴との組合せのうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. N E X T 21 ————— 今後の都市型集合住宅のあり方を考える一つのモデルとして、省エネルギーや環境負荷の低減、スケルトン・インフィル等の試みを行っている実験集合住宅
(大阪市)
2. 芦屋浜高層住宅 —— 5層ごとに共用の憩いの場等である空中庭園をもつ、工業化工法による集合住宅
(兵庫県芦屋市)
3. ユーコート ————— 住棟に囲まれた敷地中央のまとまった共用緑地や広場からアクセスする多様な住戸を、コーポラティブ方式により建設した集合住宅
(京都市)
4. 基町団地 ————— 木造老朽住宅地区の再開発事業として計画され、屋上階に共用広場をもつ中層中密度の集合住宅
(広島市)

問題 1 4

建築計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 事務所の計画に当たり、固定間仕切を使わず、ローパーティション・家具・植物等を自由に配置することによって、適度なプライバシーを保った執務空間を形成するオフィスランドスケープを採用した。
2. 事務所の計画に当たり、在席率が低い職種の事務所であったので、フリーアドレスオフィスを採用し、執務空間を有効活用できるようにした。
3. 劇場の計画に当たり、台詞を主体とする演劇^{せりふ}の見やすさを考慮し、可視限界距離を20mとして客席の配置を計画した。
4. 図書館の計画に当たり、閉架式書庫の内部にブラウジングルームを設け、B D Sによって、入室管理を行うことができるようにした。

問題 1 5

災害に関連した建築物等の整備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 「指定緊急避難場所」としての施設は、災害が発生した場合、又は発生するおそれがある場合にその危険から逃れるための避難場所であり、洪水等に係るものについては、想定される洪水等の水位以上の高さに避難スペースを配置する必要がある。
2. 「基幹災害拠点病院」には、病院機能を維持するために必要な全ての施設が地震等に対して安全な構造を有すること、敷地内にヘリポートを有すること等が求められている。
3. 「応急仮設住宅」のうち「借上型仮設住宅」は、地方自治体が民間賃貸住宅を借り上げて供与することをいい、東日本大震災以降は「みなし仮設住宅」とも呼ばれているものである。
4. 「応急仮設住宅」のうち「建設型仮設住宅」は、災害発生後に速やかに建設され、恒久的に供与されるものである。

問題 1 6

幼保連携型認定こども園の計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 園舎は、地上2階建てとし、園庭は園舎と同一の敷地内に設けた。
2. 園児のための諸室として、ほふく室、保育室、遊戯室及び便所を設け、ほふく室と遊戯室を兼用する計画とした。
3. 飲料水用設備を、手洗い用設備や足洗い用設備とは別に設けた。
4. 食事の提供をすべき園児数を25人とする計画であったので、独立した調理室を設けた。

問題 17

建築物とその特徴との組合せとして、**最も不適当な**ものは、次のうちどれか。

	建 築 物	特 徴
1.	ふじようちえん (東京都立川市)	屋内の間仕切壁が少なく、引戸の多用により屋外ともつながる広々とした空間の上に、自由に走り回れる円環状のウッドデッキを設けた屋根がある幼稚園
2.	愛知県児童総合センター (愛知県長久手町)	チャレンジタワーと呼ぶ吹抜け空間を中心としたアトリウムを取り囲むように創作活動諸室、体験諸室、幼児コーナー等が配置された児童施設
3.	国立国会図書館関西館 (京都府精華町)	書庫を地下に、中庭に面した閲覧室を半地下に配置することで建築物の地上部分のボリュームを抑え、景観上の調和に配慮した図書館
4.	茅野市民館 (長野県茅野市)	各階の大空間を構成するプレートを13本のチューブが貫き、市民ギャラリー、図書館、映像センター等が複合した施設

問題 18

「建築士法第25条の規定に基づき、建築士事務所の開設者がその業務に関して請求することのできる報酬の基準」において、**工事監理に関する標準業務として示されていないものは、次のうちどれか。**

1. 工事監理の着手に先立って、工事監理体制その他工事監理方針について建築主に説明する業務
2. 工事と設計図書との照合及び確認を全て終えた後、工事監理報告書等を建築主に提出する業務
3. 工事施工段階において、設計意図を正確に伝えるための質疑応答、説明等を建築主を通じて工事施工者に対して行う業務
4. 設計図書の定めにより、工事施工者が作成し、提出する施工図(躯体図、工作図、製作図等)、製作見本、見本施工等が設計図書の内容に適合しているかについて検討し、建築主に報告する業務

問題 19

プロジェクトマネジメントに関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. LCMは、建築物の機能や効用の維持又は向上を図りつつ、建築物をその生涯にわたって管理することであり、LCCを最大化することが大きな目的である。
2. 不動産分野におけるアセットマネジメントは、不動産の所有者や投資家の代行として、テナント対応や建築物の維持管理、運営までを含めた一連の不動産業務を行うことである。
3. BOTは、公共サービスに関わる建築物を民間が建設して一定期間運営し、期限満了後に行政に移管する仕組みのことである。
4. VMは、建設投資の最適化を目的として、コスト縮減に関わる提案を実現するために実施するものである。

問題 20

建築積算に関する次の記述のうち、建築工事建築数量積算研究会「建築数量積算基準」に照らして、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 山留め壁(地中連続壁)における鉄筋の所要数量を求める場合、設計数量に3%の割増をすることを標準とする。
2. 木材による間仕切下地について、材料としての所要数量を求める必要がある場合、原則として、「設計寸法による長さをm単位に切り上げた長さ」と「設計図書における断面積」とによる体積に5%の割増をした体積とする。
3. 屋根板のコンクリートの上面が傾斜している場合、その勾配が $\frac{3}{10}$ を超えるものについては、その部分の上面型枠又はコンクリートの上面の処理を計測・計算の対象とする。
4. 鉄骨材料の所要数量を求める場合、ボルト類及びアンカーボルト類については、設計数量に4%の割増をすることを標準とする。